



井元警察署長(右)から坪井社長(中)にひまわりの絆プレートを託される

## 命の大切さを伝える

「ひまわりの絆プロジェクト」  
愛で繋ぐひまわりの絆リレー出発式



ひまわりロードで交通安全の呼びかけ

弟子屈警察署(井元秀樹署長)の主催による「ひまわりの絆プロジェクト」愛で繋ぐひまわりの絆リレー出発式が9月2日、弟子屈車輛興業(株)(坪井智裕代表取締役社長)車庫前で行われました。式には、関係者など10人が参加しました。

「ひまわりの絆プロジェクト」とは、交通事故で亡くなった4歳の男の子が育てていたヒマワリを多くの場所で開催させることで、命の大切さと交通安全を伝えていく取り組みです。同警察署は、一昨年から取り組みに参加し、今年5月～6月にかけて町内各所でヒマワリの種まきを行いました。今回は各地で花を咲かせたヒマワリを一本のたすきと、手作りのひまわりの絆のプレートを手に、リレー形式で巡ります。

式では、井元警察署長から弟子屈警察署連絡協議会の横田憲治会長にたすきが、坪井社長には絆のプレートが手渡され、国道243号線沿いに花を咲かせたヒマワリの前で交通安全の呼びかけも行われました。

このたすきと絆プレートは、ヒマワリが花を咲かせる弟子屈町、標茶町の小中学校や駐在所など16カ所を数日かけてリレーし、各地で交通事故防止を呼びかけます。

## 神秘の湖を守るために

摩周湖モニタリング調査



湖心まで船で移動



円盤を使用して透明度を測定

調査には同協議会の当町をはじめ、摩周湖周辺5町と関係者が参加。湖心まで船で移動し、採水や透明度測定などを行いました。透明度測定では、直径30cmほどの白い円盤を湖に沈め、円盤が見えなくなるまでの深さを測定します。今年の透明度は25・8mを記録し、昨年よりも4・7m高くなりました。



専用の器具を使った採水の様子

摩周湖環境保全連絡協議会(会長・徳永町長)による摩周湖モニタリング調査が8月3日・4日の2日間で行われました。

これまで国立環境研究所が湖水環境モニタリング調査を行っていましたが、平成30年をもって終了。調査継続のため、令和元年11月に弟子屈町と周辺地域である清里町、別海町、中標津町、標茶町の5町が協力し同協議会を設立しました。

調査はクラウドファンディングで募った資金などで実施され、今年度は91人の支援者の方から125万円が寄付が寄せられました。

町の話



CloseUp Topics

## 2年ぶりの運動会を開催

弟子屈小学校大運動会



1～3年生による団体遊技「タッタ」



全力でバトンを繋ぐ



さあ出番だ！



4～6年生の息のそった「弟小ソーラン」

児童の皆さんは「全力を尽くせ！感謝！協力！心をつに！」をスローガンに、徒競走や学年競技、紅白選手リレー、団体遊技やソーラン節など、どの競技も真剣に取り組み練習の成果を発揮していました。



堂々とした入場行進

弟子屈小学校(大西展史校長)で、9月14日～15日に、大運動会が開催されました。

昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止となったため、2年ぶりの開催となりました。今年も当初は6月の開催を予定していたものを延期し、午前中だけの短縮日程・学年分散など感染防止対策を徹底し開催。参観者数の制限も行われましたが、児童のやる気は十分。観覧者も拍手で応援するなど、両日とも大いに盛り上がりしました。

## 豪華列車の運行で北海道を応援

「ザ・ロイヤルエクスプレス」摩周駅・川湯温泉駅に入線



「星に願いを」などを生演奏

道東などを3泊4日で周遊する観光列車「ザ・ロイヤルエクスプレス」北海道クルーズトレインが、8月14日、21日、28日、9月4日、11日、18日、25日の計7回、摩周駅と川湯温泉駅に入線しました。

同列車の運行は、胆振東部地震で影響を受けた北海道を応援しようと東急(株)やJR北海道が企画し、昨年実施されています。

川湯温泉駅に到着時には、町民の方や鉄道ファンが手持ち旗や横断幕で乗客を出迎えました。ホームでは同列車に同行するバイオリニストによる生演奏が披露され、出迎えた町民などの皆さんも喜んでいました。

同列車の乗客の皆さんの多くは同駅に停車中運行されたバスツアーにも参加し、摩周湖第三展望台を観光。役場観光商工課の職員が摩周湖の成り立ちや特徴などを紹介しました。

バスツアーを終えた参加者は再び列車に合流し、町からは渡辺体験牧場で作られている「牛のおっぱいのむヨーグルト」がプレゼントされ、川湯温泉駅を出発しました。



皆さん笑顔で出発されました



手持ち旗を振ってお出迎え